

## R3 年障がい者就労支援セミナー いただいたご質問への回答

Q：支援機関を介さず、相談者ご本人が個人的に就活をして採用になった後に、「やっぱり不安なので…」と、企業と支援機関でやり取りしてほしいとご希望された場合、どのような流れ、又は支援が必要と考えられますか。

A：

これまで千五百人雇用センターで関わった方につきましては、企業の障がい者雇用ご担当者にご連絡をする⇒障がい者雇用ご担当者(もしくは現場の担当者)、本人、千五百人雇用センターで面談を行い、ナビゲーションブック等を用いてご説明。といった流れで支援を行っています。ご本人が、障がいをオープンにしているか否かで企業へのお伝えの仕方が変わるとは思いますが、ご参考になればと思います。(回答者：総社市障がい者千五百人雇用センター)

Q：福祉的就労から一般就労への移行について失敗事例について教えてください。

A：

支援者間や、支援機関と企業の連携がスムーズに行かず、就労定着がうまくいかず退職になるケースがあります。

それまでのプロセスをふりかえり、うまくいかなかった原因を見つけることが重要だと思います。見つければ、次のステップに必ず生かすことができます。

原因が見つからない時は、考え方の方向性を変えるのも大切です。「失敗は成功のもと」と言われるように、成功のヒントがあります。個人的には、失敗だと落ちこまず、前向きに考える広い視野と、くじけず進む柔軟な心が、ステップアップに必要なと思います。支援者としては、ご本人の困り感の発信に、どのように支援したらいいのか。常に心がけています。(回答者：就労継続支援 A 型事業所のぞみ)

Q：発達障害のある子どもの教育段階で、就労にむけて身につけておいた方がいいことは何ですか？

A：

色々身につけておいた方がよいことは浮かぶかと思いますが、働き出してから労働習慣を想像して、逆算して考えてみたことをお伝えさせていただきます。

- ①健康に働き続けるためには、心の健康が欠かせません。学童期時代に、些細なことや日常的なことでよいので、本人が続けられていることを誉めることが、心の健康の土台になると思います。そして、困った時に自分から相談するといったことも重要です。他者(家族を含む)からの提案に応じることで上手くやれた体験を積み重ね、安心できる関係を作っていくことが大切だと考えます。

- ②就業時間は精一杯働かないといけない！と誠実に考えている人も多いです。休憩時間や休日のリフレッシュ方法があることは、息切れを防ぎ、無理なく働き続ける上で大切なスキルです。好きなこと、余暇時間の過ごし方など、いくつかのレパートリーをもっておくとよいです。
- ③遅刻なく忘れ物なく出勤し、それなりに身だしなみに気をつけながら出勤することを考えると、物の置き場所を決めておく、朝の段取りや身だしなみチェックポイントは、最初は手伝うが、成長と共に自分でチェックリストで確認するなどが考えられます。
- ④例えば障害者雇用の現場では、入社時に体調チェックをつけるなど、ご本人とサポートする側と一緒にコンディションを把握している所も増えてきました。生活リズムの安定・食事や服薬管理・体力づくりなど、成人になるまでに日々取り組むことが、就労する際にも働き続けるベースとなります。
- ⑤会社の一員として役割をこなす、という労働習慣の基礎は、小さい頃からのお手伝い経験から培われると思います。最初は簡単なお手伝いを家族がサポートしながらでよいので、「役割をこなす⇒評価される」という経験を積むことがあればと思います。これは、就労することのイメージの土台となると考えられます。
- ⑥求職活動時には自分が続けられそうな仕事を考えたり、就職時にはサポートしてもらいたい点を会社側と話したりすることも想定されます。自分の特性を知るとは、小さい頃から色々な体験をもとに話すチャンスがたくさんあります。日常生活をお子さんと振り返る際に、『〇〇のとき（場面）は実力が発揮できなかったけど、□□のとき（場面）は、いつもどおりやれてたよね』など、良いところも苦手なところも含めてお子さんを認めるスタンスが、青年成人期の自己理解につながると思います。
- ⑦最後に、ご家族が健康的に生活することも、とても大切なことです。働き続ける本人を支えるために、ご家族が少しでもほっとできる時間を大切にしてください。ご家族に合った、相談できる周囲の人や支援者を見つけていただければと思います。（回答者：おかやま発達障害者支援センター）